

## 研究発表申し込みフォーム

氏名：ア Rilディ・ボルマー

氏名のローマ字表記：Arildii Burmaa

所属：大谷大学大学院文学研究科

専門分野：チベット仏教

発表のタイトル：『菩提道次第大論』のモンゴル語訳とその翻訳方針について

発表要旨（600字～800字程度）：

近世以前のモンゴルにおいて仏教は広汎な影響力を有し、とくに、ツォンカパ（1357年–1419年）を開祖と仰ぐチベット仏教の一宗派ゲルク派はモンゴルの三大フトクトの初代を認定し、モンゴル各地に建てられたゲルク派の大僧院ではツォンカパの教えが伝法されていた。そのため、覺りにいたるまでの修行階梯を記したツォンカパの主著『菩提道次第大論』(*lam rim chen mo*)も広く読まれ、複数種類のモンゴル語訳が伝えられている。

そのうち、現在、発表者が確認できたのは、以下の五種類である。

- ① アルタンゲレル・ウバシ訳（17世紀）、手写本（モンゴル国立図書館所蔵 No.4049/96, cf. Д. Ганзориг, Р. Бямбаа 2017, 5p.）。
- ② ザヤ・パンディタの弟子であるメルゲン翻訳師・ガワンローロイ（1599–1662）訳、トド文字木版本（モンゴル国立図書館所蔵 No.8541/96, cf. Г. Ядамжав 2017, 401p.）。
- ③ ウラトのメルゲン・ラプジャムバ訳（内モンゴル仏教会図書館所蔵）。
- ④ グーシ・ダンザンチョイドル訳（北京版モンゴル大蔵經のテンギユル（論部）に付されたツォンカパ全集に収録されるモンゴル語訳。東洋文庫所蔵 MO2-07-11,13,16+24）。
- ⑤ ハラチンのゲシェー・ロサンツェンペー・グーシに帰せられる翻訳。

このうち、④の東洋文庫に所蔵される版本は1749年に乾隆帝を施主として乾隆帝の師であったチャンキャ・フトクト3世 (*lcang skya rol pa'i rdo rje*, 1717–1786) の監督の下に開版された北京版モンゴル語訳テンギユルの一部であったことから、とりわけ広汎に普及した。

チャンキャは、モンゴル語訳テンギユルの建立にあたり、訳語を統一することを目的として正字法の本『メルゲド・ガラフィン・オロン』 (*Tib. dag yig mkhas pa'i 'byung gnas / Mo. merged yarqu yin orun*) をチベット語で著し、20人以上の学僧によって乾隆六（1741）年から七（1742）年にかけてモンゴル語に訳させた。本発表では、上記5種類のモンゴル語訳と『メルゲド・ガラフィン・オロン』の訳語を比較し、④の北京版が、それ以前の訳とは異なり、この『メルゲド・ガラフィン・オロン』の正字法に則ってなされていること、また後世の⑤は必ずしもその翻訳方式に則っていないことを具体的に示したい。

## 参考資料

福田洋一、石濱裕美子 1986 『西藏仏教宗義研究 第四巻：トウカン『一切宗義』モンゴルの章』 東洋文庫

松川節 2011 「清代のチベット語・モンゴル語辞典について」 東北大学ワークショップ「モンゴルの辞書」

Д. Ганзориг, Р. Бямбаа 2017. *МОНГОЛЧУУДЫН ГАНЖУУРТАЙ ХОЛБООТОЙ НОМ БҮТЭЭЛИЙН ӨВ*. Арван долоодугаар зууны үеийн Халхын алдартай орчуулагч Алтангэрэл увшийн орчуулсан “Ихэд тонилгогч” хэмээх судар оршивой. Монгол билэг төв.

Г. Ядамжав 2017 *Бодь мөрийн үе оршивой*. Год номын гэрэл төв.